

## 入学試験情報

秋季日程	
PL、GG、PE共通	
一般選考、社会人特別選考、外国人留学生特別選考	
募集人員	40名程度
出願期間	8月上旬
第1次試験(筆記)	8月下旬または9月上旬
第1次試験合格発表	8月下旬または9月上旬
第2次試験(面接)	9月上旬または9月中旬
合格発表	9月下旬

春季日程	
PL、GG、PE共通	
一般選考、社会人特別選考、外国人留学生特別選考	
募集人員	若干名
出願期間	1月上旬
第1次試験(書類審査など)合格発表	1月中旬
第2次試験(面接) ※公共法政のみ+小論文	1月下旬
合格発表	2月上旬

募集人員		国際・行政		公共経済	
コース	PL	GG	PE	APPP	
プログラム					
2年課程	一般社会人留学生	30名程度		15名程度*	
1年課程	社会人	10名程度		—	
全体の定員	55名				

○募集要項は、ホームページにて公表。

○募集要項は、ホームページにて公表。

※選考方法は、プログラムや各選考で異なります。また、試験日程等、年度によって変更する場合がありますので、必ず募集要項で詳細をご確認ください。

※プログラム名 PL:公共法政、GG:グローバル・ガバナンス、PE:公共経済、APPP:アジア公共政策

※社会人のみ。なお、APPPは秋入学のプログラムです。春に実施される入学試験については、以下のサイトをご覧ください。

<https://www.ipp.hit-u.ac.jp/appp>

## アクセスマップ



### 国立キャンパス

〒186-8601 東京都国立市中2-1

JR中央線  
国立駅南口下車  
徒歩8分




### 千代田キャンパス

〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋2-1-2  
学術総合センター内

東京メトロ東西線  
竹橋駅1B出口より徒歩5分  
東京メトロ半蔵門線・都営三田線・都営新宿線  
神保町駅A8出口より徒歩5分




School of International and Public Policy University of Hitotsubashi

# 一橋大学 国際・公共政策大学院

公共法政  
グローバル・ガバナンス  
公共経済  
アジア公共政策



# 国際色豊かな少人数教育だから

## 一人ひとりが真のプロフェッショナルになれる。

一橋大学国際・公共政策大学院は、「先端研究の基礎に立つ高度専門教育」、「複合的視点の育成」、「政策分析における多角性と実践性」、「アジア・太平洋における拠点の構築と世界への発信力の養成」の4つを基本理念として、2005年に設立された専門職大学院であり、法律学・行政学、国際関係、経済学のいずれかの専門領域の分析方法を習得した上で、隣接分野の視点も取り入れながら学ぶことが求められます。現実の諸問題に対して専門的・総合的知見を持ち、倫理観と責任感を備えたプロフェッショナルな人材を育成することを目標としています。

定員は1学年55名。社会人1年コースや外国人留学生特別選考などを設けて、社会人、留学生をバランスよく受け入れ、異なるグループ間での交流を通して、さまざまな政策について新鮮な議論が日々行われます。教授と学生の関係が緊密であるという一橋大学の伝統は、ここでも守られています。少人数教育こそ、実践で役立つ高い専門性と複合的視点を持つ真の政策のプロを育てていくために不可欠と考えています。

また、日本語と英語による講義がともに充実していることも特徴。講義のみならず、英語でのセミナーやシンポジウムなど、英語で政策問題について考え、議論する機会も数多くあります。日本にいながらにして、英語での講義やセミナーに参加できる機会を豊富に提供すること。これが大学院の国際化のあるべき姿であり、アジア・太平洋における知の拠点となるために必要と考えています。



### 院長挨拶



国際・公共政策大学院院長

### 秋山 信将

2019年12月にはじまった新型コロナのパンデミックは、私たちの生活を変容させ、そして国際社会のありかたも大きく変えました。2022年5月までで、世界全体の感染者数は5億人を大きく超え、死者数も600万人を超えています。医療・公衆衛生、レストランをはじめとするサービス産業、スポーツ、製造業、教育、多くのセクターが多大な影響を受け、我々の社会は大きなストレスに直面しています。またグローバル化が進んでいた国際経済は、物流の停滞や、マスク外交・ワクチン外交に象徴されるような自国第一主義的な志向の強まる中で減速しました。

また新型コロナのパンデミックは、社会のデジタル化、オンライン化を加速させました。その中で、テクノロジーは、社会の利便性の向上に資するだけでなく、個人の権利やプライバシーとテクノロジーの関係など、様々な課題も提示することになりました。

2022年に入って世界各国では社会生活や経済を正常化させる動きが見られますが、今度は、2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻が世界に暗い影を投げかけています。ロシアの行為は国連憲章違反だと国際社会の大多数の国が非難し、核兵器使用のリスクが信憑性を持って語られ、都市への攻撃では多くの市民が殺されました。また、ロシアという資源大国への制裁は世界のエネルギー価格の高騰を招き、小麦やひまわり油、肥料の輸出国であったロシアとウクライナの戦争は、アフリカなどの途上国における食糧危機を招来しています。

このように、いま私たちの社会は大きな困難に直面しています。私たちは、直面する課題を解決し、社会福祉の向上や平和を実現するために、様々な政策を策定しそして実行することが求められています。これらの課題の解決は、実は困難な選択の連続でもあります。例えばウィルスの変異による感染力や症状は刻々と変化します。さらに、異なる価値観を持つ人たちが共存する社会においては、優先すべき問題や配慮すべき価値は多様です。感染拡大防止を最優先にするのか、経済を回すことを優先するのか。不完全な情報の中で新型コロナ対策を決定し実施する必要があります。

また、ロシアによるウクライナ侵攻は、国際法上大いに問題があります。ロシアによる不正義は許容されてはならないと多くの人は考えますが、ロシアの不正義を許容せず戦争が長期化すれば国際社会、とりわけ途上国の危機が深まっていくとの声もあります。

政策は、そうした不確実性や不完全な情報、対立する価値の中で決定され実施されていくのです。もっと言えば、一つの政策ですべての人たちを満足させることができないというジレンマは、世界規模の危機に固有のものではなく、日々の多くの公共政策の決定においてもあることです。

公共政策にかかわるということは、このような困難な決定の一端を担うことでもあります。どのようにしたら、決定に異議を唱える人たちも含めた社会全体の福祉の向上に資するような施策を選択できるのか、その選択をよりよく説明できることができるのか、そして実施することができるのかを考える必要があります。

一橋大学国際・公共政策大学院(IPP)では、日々困難な選択に直面する中で、最先端の学問的な知見を駆使してより良い政策の選択肢を提案・選択し、ステークホルダーとのコミュニケーションの中から実施することができるのか、またそうしたプロセスにどのように関与していくべきか、学問的基盤とコミュニケーションのスキルなどを獲得するための機会を提供したいと考えています。

IPPには、最先端の社会科学的研究を行い、また国内外での豊富な実務経験を持つ教員がいます。そして少人数のコミュニティの中での密接なコミュニケーションの中で学生にその知見を共有し、ともに学んでいくことを望んでいます。また、研究・学習の意欲にあふれた、多様なバックグラウンドを持つ仲間たちが国内はもとより世界各国から集まっています。

みなさんが、このIPPコミュニティの一員として、私たちと共に成長し、社会に大きく貢献し、そしてそれぞれの個性を活かしたキャリアを築いてくれることを期待しています。

## 4つの基本理念

私たちは、2005年の設立時から、次の4つの理念を掲げて、教育・研究を行っています。

### 先端研究の基礎に立つ高度専門教育

国際社会や国内社会における公共政策研究の最新の成果を実務へと架橋し、また実務での問題をいち早く教育・研究に反映させます。

### 複合的視点の育成

政策研究における法律学・行政学、国際関係、経済学の横断性に力点を置き、複合的視点で政策課題を見つめられる人を育てます。

### 政策分析における多角性と実践性

政策の判断主体・担い手の多様化を踏まえ、「官と民」両方の視点から、実践的な政策分析を行うことを重視します。

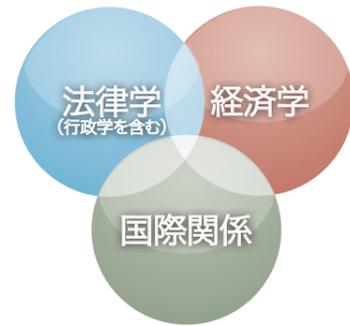
### アジア・太平洋における拠点の構築と世界への発信力の養成

アジア・太平洋における国際・公共政策の研究・教育の拠点形成をめざし、政策形成のリーダーとなる人材育成を行っています。

## カリキュラムの特色

国際・公共政策大学院では、法律学・行政学、国際関係、経済学の先端的研究も踏まえて、さまざまな政策問題に対して多面的にアプローチします。学生は、自分の専門分野を持つという意味で、所属するコース・プログラムを選択しますが、専攻を横断して、さまざまなアプローチを学ぶことが奨励されます。そのため、カリキュラムの中には「横断型科目」と呼ばれる科目も提供され、学生・教員が異なる視点から多面的に政策を議論する機会が設けられています。それぞれのアプローチの良さを取り入れて、多面的に深く政策を分析し、立案する能力を備えた人材を育てていきたいと私たちは考えています。

修士論文の執筆は学位取得の要件ではありませんが、一般に、研究論文あるいはリサーチ・ペーパーと呼ばれる報告書を作成することが求められます。卒業生には、政策に関する質の高い報告書を書くことが期待されると同時に、報告書を完成させる過程で、大学院で学んだことを、現実の政策問題に応用する力を身につけること



ができると考えるからです。

学位取得に必要な単位数は、1年課程、2年課程ともに44単位です(単位は「週1回/半年の講義の修了=2単位」と計算されます)。各プログラムの特徴や履修のイメージは、本ページおよび次ページ下段の表をご覧ください。

## 国際・行政コース【国際・行政修士(専門職)】

### 公共法政プログラム

公共法政プログラムは、学生諸氏の公法についての専門的かつ実践的理解を促進することを目指し、法政策の形成能力を備えた人材を政府・自治体などへと送り出すことを、そのミッションとしています。より具体的には、人権、環境、情報、行政の各分野において優れた法政策分析と立法のための法政策を立案することができる即戦力的人材を世に送り出すことを目指します。グローバル化の波に洗われている国家政府や地方自治の場において、時代の趨勢にあった公共性を身につけた、地球時代の法政策パイオニアを育成することを目指します。

#### 初年度春夏学期の履修例

	月	火	水	木	金
1限目					
2限目	社会保障論I				市民社会論
3限目	行政法基礎論			地方行政論I	政策事例研究
4限目	行政学I・基礎	公共経済分析I			
5限目					
6限目	公共法政ワークショップI	政策法務研究			国土交通論

(夏期集中講義)EU論、行政管理論

#### 1年コースの秋冬学期

春夏学期に引き続いて修了に必要な各科目を個人関心に応じて選択履修しながら、「公共法政ワークショップII」「1年次特別ワークショップ」「特別研究指導」の各科目を共通に履修し、任意に選択したテーマについて、法律学または行政学の立場から研究論文を作成します。

#### 2年コースの秋冬学期以降

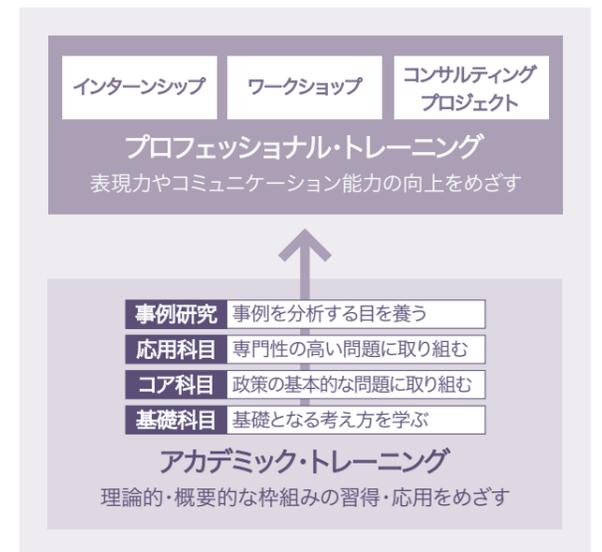
春夏学期に引き続く3学期間にわたって、修了に必要な各科目を選択履修します。その際には、法科大学院との合併講義科目などを含めて、より専門性の高い科目を履修することが強く期待されます。また、夏期に開講される「インターンシップ」では、それぞれが選択した政策の現場で実体験し、レポートを作成することによって単位が認定されます。さらに、「公共法政ワークショップ」を、IIからIVまで段階的に履修することによって、個人の関心に応じて研究テーマを選択し、最終的に研究論文を作成します。

\*具体的な開講科目はホームページ([https://www.ipp.hit-u.ac.jp/curriculum/curriculum\\_view.html](https://www.ipp.hit-u.ac.jp/curriculum/curriculum_view.html))をご覧ください。

## カリキュラムの基本的な仕組み

カリキュラムは、基礎科目、コア科目、応用科目、事例研究からなるアカデミック・トレーニングと、ワークショップなどの科目群からなるプロフェッショナル・トレーニングから構成されます(右図)。プロフェッショナル・トレーニングの目標は、コミュニケーション能力(深く聴く力と伝える力)を高めることです。プレゼンテーションの技能、議論を円滑かつ活発に進めていくための技術、与えられた課題をレポートにまとめる力など、社会で活躍するために必要なさまざまなスキルを身につけていきます。

次々と起こる新しい課題に対して、流動的な組織の中で、ひとつひとつ着実に結果を出していかなければならない。これが現代の組織の一つの特徴です。そのような慌ただしさの中でよい成果を生み出していくためには、専門性の高い見識と技能とともに、高いコミュニケーション能力を身につけておくことが要求されます。政策大学院では、充実したアカデミック・トレーニングとプロフェッショナル・トレーニングを通して、そのような要求に応えられる人材を育てていきたいと考えています。



## 公共経済コース【公共経済修士(専門職)】

### 公共経済プログラム

公共経済プログラムでは、経済学の専門知識に基づいて、税制、社会保障、地方財政など公共政策に関わる諸問題について正しく事実認識、説明、評価できるとともに、必要な改革のデザインと執行を担える人材の育成を目指します。2年課程では、中央官庁、地方自治体、NGO・NPO、研究機関、民間企業など、政策や公民連携の現場で即戦力となる分析能力と行動力を持った人材を育成していきます。1年課程では、中央官庁、地方自治体、民間企業などで公共政策に関わる仕事をしている社会人を募り、政策分析・提案の能力の向上を図ります。

#### 初年度春夏学期の履修例

	月	火	水	木	金
1限目	政策分析の技法I	マクロ経済分析			マクロ経済分析
2限目			経済統計分析入門	ミクロ経済分析	
3限目	ミクロ経済分析	計量経済分析			計量経済分析
4限目			公共経済分析I (TAセッション)		

(夏期集中講義)応用計量経済分析I

#### 1年コースの秋冬学期

「特別研究指導」や「1年コース特別ワークショップ」などの科目を含む44単位以上の科目を卒業までに履修しながら、各自の問題意識に基づいて研究論文を執筆し、大学院での成果をまとめます。

#### 2年コースの秋冬学期以降

初年度の秋冬学期には「公共政策ワークショップ」やコア科目・応用科目を中心に履修し(2年コースの年間履修限度は原則として36単位です)専門性や応用力を高めます。2年次には、さらに実践的な科目を履修しながら、コンサルティング・プロジェクト(必修)や研究論文の執筆(任意)などに取り組み、卒業までに44単位以上を取得します。

\*アジア公共政策プログラムの開講科目はホームページ([https://www.ipp.hit-u.ac.jp/curriculum/curriculum\\_app2.html](https://www.ipp.hit-u.ac.jp/curriculum/curriculum_app2.html))をご覧ください。

### アジア公共政策プログラム

アジア公共政策プログラムは、平成12年度から千代田キャンパスの一橋大学大学院国際企業戦略研究科で、毎年15名ほどのアジア諸国の留学生の教育を行うとともに、海外の研究者を数多く招き、教育面および研究面で実績をあげてきました。平成17年度からは、国際・公共政策大学院に統合され、アジアでの公共政策教育・研究の真の拠点となることを目指しています。世界経済におけるアジア経済の重要性が一段と高まっていく状況下、公共政策の理論と実務に関する深い知見を持った国際性のある人材の育成に一段と注力していきます。

#### 初年度秋冬学期の履修例

	月	火	水	木	金
1限目					Microeconomics for Public Policy
2限目	Economic of Public Sector I	Macroeconomics: Theory and Policy		Fundamentals of Econometric Methods I	English Thesis Writing I
3限目		Microeconomics for Public Policy		Macroeconomics: Theory and Policy	
4限目				Seminars	Workshop on Current Topics

APPPでは、他のプログラムと異なり、9月よりプログラムが開始されます。また、授業は全て英語で行われます。1年目の秋冬学期では、主にミクロ経済学・マクロ経済学・公共経済学・計量経済学といった必修科目を受講します。翌4月の春夏学期からは財政・金融その他の各分野に関連した選択科目を受講します。これらと平行して、学生は2年間、指導教官の行うゼミに参加します。2年目の秋冬学期には、指導教官の指導の下、修士論文の作成を開始します。2年目の春夏学期、修士論文提出後、教官による口頭試問を経て、7月に卒業することになります。

# 専任教員紹介



准教授 **阿部 辰雄** 公共法政

東北大学法学部卒業後、2010年総務省入省。国では選挙制度や消防防災分野を担当し、地方(福井県・奈良県)では、企画、観光、財政の分野などを経験しました。授業では、地方行政論などを担当します。

**好きな言葉** あをによし寧楽の京師は咲く花の薫ふがごとく今盛りなり



教授 **青野 利彦** グローバル・ガバナンス

カリフォルニア大学サンタ・バーバラ校博士(歴史学)。オックスフォード大学(2012年)、ロンドン政治経済学院(LSE:2014~16年)客員研究員。専門は国際関係史、アメリカ外交史。授業はHistory of International OrderやUS Foreign Policyを担当しています。

**学生へ一言** 歴史を学ぶ面白さを伝えられればと思います



准教授 **クォン ヨンソク** グローバル・ガバナンス

一橋大学博士。ソウル大学日本研究所・早稲田大学韓国学研究所客員研究員歴任。日本外交史、東アジア国際関係史、韓国現代史を研究し、映画、音楽などポップカルチャーやスポーツなど「文化」面から日韓、東アジアを理解することにも関心があります。東アジア国際関係、日本外交政策論を担当しています。

**学生へ一言** 東京-ソウル-平壤-北京を経て、陸路でパリまで行くのが夢です。



准教授 **横山 泉** 公共経済

米国ミシガン大学博士(経済学)。専門は労働経済学と応用計量経済学。賃金や労働時間に関する政策評価を中心とした実証分析を行っています。授業では、ミクロ経済分析、応用計量経済分析II、経済統計分析入門などを担当します。

**学生へ一言** 授業は実例を用いてわかりやすく教えます



教授 **辻 琢也** 公共法政

東京大学博士(学術)。地方制度調査会や社会資本整備審議会の委員などを歴任。行政学や地方自治論を中心に研究しています。授業では、行政学I・基礎や行政学II・応用、政策法務研究などを担当します。

**学生へ一言** 「求めよ、さらば与えられん」



教授 **秋山 信将** グローバル・ガバナンス

一橋大学卒業。博士(法学)。外務省在ウィーン国際機関日本政府代表部公使参事官(2016-2018)。専門は国際安全保障。特に核不拡散・核軍縮の問題を研究しています。授業は、International Security Policyなどを担当します。

**学生へ一言** 学生の皆さんとの議論はいつも楽しみです



准教授 **竹村 仁美** グローバル・ガバナンス

アイルランド国立大学ゴールウェイ校博士(法学)。国際法を専門とし、国際刑事法を中心に研究しております。具体的には、国際刑事裁判所の活動、国際法上の犯罪に対する国家の刑事管轄権の行使、個人の国際法上の刑事責任を主な研究課題としてきました。授業はCommunity Interest and International Lawなどを担当します。

**趣味** ホットヨガ



教授 **井伊 雅子** アジア公共政策

米国威斯コンシン大学マディソン校博士(経済学)。医療や福祉政策を中心に研究しています。授業はFundamentals of Econometric Methods, Economic Analysis of Social Policy, 東京医科歯科大学の連携プログラムでは医療経済を担当。一橋大学医療政策・経済研究センター(HIAS Health)研究員を併任しています。

**学生へ一言** Where there is a will, there is a way (意志あるところに道は開ける)



准教授 **土井 翼** 公共法政

東京大学法務博士(専門職)。専門分野は行政法学です。日々移ろいゆく実定制度の広大な森で迷子にならないための理論体系の構築が主たる関心の対象です。IPPで行政法を担当するほか、法学部や法科大学院でも講義を行っています。

**学生へ一言** 法学の面白さや懐の深さを一緒に体験しましょう。



教授 **石塚 英樹** グローバル・ガバナンス

米国スタンフォード大学修士(東アジア研究) 日本国外務省の本省および在外公館での実務経験および北京大学などでの研修を踏まえて、中国・アジア地域研究、国際協力を中心に国際関係論を研究しています。担当科目は中国政治外交史および日本外交政策論です。

**座右の銘** 読書百遍 義自ずから見



教授 **佐藤 主光** 公共経済

カナダ・クイーンズ大学博士(経済学)。地方財政・税制を中心に学術・政策の両面で研究してきました。机上に留まらない理論の実践を目指しています。授業では公共経済分析I、地方財政論などを担当。一橋大学医療政策・経済研究センター(HIAS Health)長を併任し、医療経済プログラム(高度職業人養成)に携わっています。

**座右の銘** 「下手な鉄砲、数うちや当たる」、「人生万事塞翁が馬」



教授 **関根 敏隆** アジア公共政策

英国オックスフォード大学博士(経済学)。国際通貨基金、国際決済銀行への出向も含めて33年間の日本銀行での経験を、Central Bankingの講座でお伝えします。経済理論や計量分析がどう政策に活かされているのか、中央銀行という公務に携わる醍醐味を示したいと思っています。

**好きな言葉** 先を見よ、今を生きよ



教授 **野口 貴公美** 公共法政

一橋大学大学院法学研究科、博士(法学)。専門は行政法。関心分野は、出入国管理行政、警察行政、公文書管理行政などです。行政不服審査会、社会資本整備審議会、出入国管理政策懇談会などの委員として実務と関わっています。IPPでは、行政法関連科目を担当します。

**学生へ一言** 政策の実施に必要な行政法、一緒に楽しく学びましょう。



教授 **市原 麻衣子** グローバル・ガバナンス

米国ジョージ・ワシントン大学博士(政治学)。米国シンクタンク、Carnegie Endowment for International Peaceのプロジェクト、「Rising Democracies Network」研究員(2013年~現在)。専門は日本の民主化支援です。授業は国際政治学基礎論およびGlobal Governance Seminarなどを担当します。

**学生へ一言** 各自の個性・強みを大切に前進していきましょう



准教授 **高久 玲音** 公共経済

慶應義塾大学博士。データを用いた医療政策の政策評価分析が専門です。IPPでは計量経済分析を担当しています。数学も比較的多い講義となりますが、丁寧に教えますので一緒に頑張りましょう。

**趣味** ピアノ



教授 **根本 洋一** アジア公共政策

米国ハーバード大学博士(公共政策)。財務省、アセアン+3マクロ経済調査オフィス(AMRO)における勤務経験を踏まえ、東アジアにおける通貨危機防止のための枠組みと国際機関について研究しています。授業では、政策形成に役立つ理論と知識の習得を目指します。担当は、マクロ経済、国際経済、ファイナンスなどです。

**好きな言葉** 拙を守る



准教授 **藤岡 祐治** 公共法政

東京大学法務博士(専門職)。専門分野は租税法です。租税法と通貨に関わる問題や租税制度と貨幣制度の関わりに関心を持って研究しています。IPPでは租税論、租税政策などを担当します。

**学生へ一言** 政策上の課題を皆さんと一緒に考えたいと思います。



教授 **大林 一広** グローバル・ガバナンス

米国ジョージ・ワシントン大学博士(政治学)。専門は、国際関係論。現地調査や計量分析などを用いて、内戦や平和構築を研究しています。授業は紛争論、Peace Studies、International Institutionsなどを担当します。

**趣味** 怪我に怯えながらのフットサル



教授 **山重 慎二** 公共経済

米国ジョンズ・ホプキンス大学博士(経済学)。子育て支援、医療、福祉政策などの社会政策を中心に研究しています。授業では、経済学基礎論、公共経済分析、コンサルティング・プロジェクト、公共経営の講義などを担当します。

**好きな言葉** 一期一会



教授 **堀 雅博** アジア公共政策

米国カリフォルニア大学バークレー校博士(経済学)。内閣府その他の省庁、国際機関での調査エコノミストとしての経験を踏まえ、日本やアジアの経済に関連する政策評価につながるような実証研究に取り組んでいます。担当科目はAPPPでの公共経済学入門と租税論、社会保障論です。

**学生へ一言** 自ら考える力、その考えを伝える技を身につけて下さい。

## 国内外で次世代を担うリーダーたち

### 日本の中枢を担う各分野の専門家や中央省庁・地方自治体の職員の方々と授業等を通じて交流ができる点は大きな魅力です

大学3年次にスウェーデンに留学し、地方の小学校で教育実習をしました。一人一台のPCやタブレットが国から支給されていることに驚き、お金で生活や教育スタイルが大きく変化することを実感したことから、財政に関心を持ちました。また、地方出身の私は、衰退が危ぶまれている地域を活性化させたいと願い、特に地方財政について学ぶべく、IPPに進学しました。

PLプログラムでは、各分野の専門家や中央省庁の職員による授業を受けることができ、こうした先生方と交流ができる点は大きな魅力です。また、同級生の中央省庁や地方自治体職員の方々と共に学ぶことができ、「現場では理論どおりに行くことは難しい」といった

実務上のお話を聞いたこともとても良い経験となりました。

修士論文の中間報告を行うワークショップでは、指導教官の方から時には厳しい指導を受けましたが、論文を磨き直し、修士1年次に最終発表で評価して頂けたことは、自信に繋がっています。

IPPでは、行政機関、民間企業、住民といった様々な立場から、一つの課題について多角的に解決策を模索することの重要性を学びました。学部卒の学生が30代、40代の社会人の方々と対等に議論できる機会も貴重であると思います。社会に出る前に、このような環境で学ぶことに大きな意義を感じています。



公共法政プログラム(PL)  
佐藤 由一朗さん

### 多様な価値観の学生との交流を通し、刺激を受け、視野が広がっていることを実感しています

ジャマイカ出身で、高校時代に語学に関心を持ち、学部時代にスペイン語やフランス語、日本語を学びました。語学の勉強を通じて興味がその国の歴史や文化にも広がり、さらには国際関係に発展して、ジャマイカとカナダの大学で国際法や国際関係を学びました。この間、JICAの外国語指導ボランティアとして長崎で働き、在日中に、日本の奨学金制度を教わってもらったことを機に、この分野の研究をさらに深めたいと日本の大学院への進学を決心。IPPは、認知度の高さや学習環境の素晴らしさで選びました。

将来は母国で国際関係の仕事に就き、社会問

題の解決に貢献したいと思っています。GG外交サブプログラムでは人権侵害をテーマに選び、国際人権条約への未加盟の影響について研究しています。ゼミの教授からは、調査研究の進め方や先生の研究ネットワークを活用しながら、多くの事を学んでいます。また、共に学ぶ学生たちは、各国の官庁の職員として働いている人、帰国子女の人など多様であり、彼ら、彼女らとの議論を通じて刺激を受け、視野が広がっていることを実感しています。自ら資料を作成して政策を立案し、発信するという授業スタイルに満足しています。



グローバル・ガバナンス外交政策サブプログラム(FSS)  
RENNIQUE THOMAS OSHANEさん



グローバル・ガバナンスプログラム(GG)  
NAZLI DENIZ SARILGANさん

### 東アジアの国際関係に興味を持ち、将来のキャリアを視野に実務的な知識も学べるGGを選びました

私が生まれ育ったトルコは親日国で、学校の授業でも日本の歴史について学んだり、日本語とトルコ語が同じ言語族に属しているといったことから、日本と日本文化に興味を持ちました。以前から外国語の勉強にも関心があり、アンカラ大学の日本語日本文学科に進学しました。アンカラ大学では日本語と日本について全般的に学び、在学中に1年間、日本の大学に留学もしました。

最も関心があった科目は日本を中心とする東アジアの歴史で、その流れから複雑な国家関係に興味を持ち、それぞれの国の立場からも学びを深めようと中国語や韓国語も学び始めました。そして、

この分野で将来のキャリアにつなげたいと考え、文部科学省の国費留学生として来日し、大学卒業後の2021年9月から半年間、一橋大学法学研究科の研究生として学びました。一橋大学の印象は、「勉強に集中できる環境がある」ということです。博士課程もここで学び続けたいと思っています。

IPPのGGプログラムを選んだ理由は現在もっとも関心がある人権や移民・難民の問題に関して、理論のみならず実務的な側面から学ぶことも重要だと考えていたからです。GGでは自由なディスカッションを中心に展開される国際政治学の授業などで多くの視座を得ています。



### 他研究科含め、様々な分野の講義を履修することで自身の視野が広がりました



公共経済プログラム(PE)  
小亦 めぐみさん

経営支援団体、コンサルティング会社で10年ほど働いたところで、コロナ禍となりました。これを機に一旦立ち止まり、今後の身の振り方を再考したのです。そこで、以前地方自治体の支援を手掛けた時に大いに喜ばれたことを想起。これからは、公共分野に関わろうと思い、退職してIPPの公共経済プログラムに入学しました。

公共分野も経済学も初学ですが、実際の業務にも役立つ理論について、丁寧な指導のもとじっくり学んでいます。たとえば、業務でうまくいかないことや社会で疑問に感じることに對して、なぜそうなるのかが、経済学を通して考えると

解できることがあります。以前は、表面的な原因究明に終始していましたが、問題の本質を考えるツールを身につけることができているように思います。

また、一橋大学の他の研究科の講義も履修できるメリットを活かし、興味関心のある国際関係論やpythonを使ったデータ分析なども学んでいます。入学当初こそ不安もありましたが、それは全くの杞憂でした。一步を踏み出すことで自分の世界が広がり、学ぶ意欲が膨らんでいきました。社会人の学び直しに、IPPは最適だと思っています。

### 学者と実務家の先生方から近い距離で学べかつ語学力も向上できるメリットがあります

現在、政府は、統計等を積極的に利用して、証拠に基づく政策立案EBPM(Evidence Based Policy Making)を推進しています。EBPMに関する知識とスキルを学ぶべく、IPPに入学しました。選考理由としては、研究者と省庁の局長級の経験者という実務家の方々から少数制でじっくり学べるのが魅力でした。また、APPPの授業は、海外からの実務経験のある留学生を対象に英語で運営されているため、実務レベルの英語が学べることもポイントでした。

印象に残った講義に井伊先生が担当された計量経済学及び社会政策論があります。高齢化社

会に直面する中で、医療、年金、介護といった社会保障費は増加しており、社会保障に関する支出の適正化は大きな課題となっています。このような状況下で、データに基づく医療政策の立案や評価を行うアプローチは、今後の業務に多いに生かせると感じています。加えて、アジア各国の財務省や中央銀行で働く学生仲間との、各国の政策立案や遂行に関する情報交換も自らの業務の参考になっています。少子高齢化の先進国である日本の政策について、これから少子化を迎えるであろう各国の人たちから熱心に尋ねられ、英語で説明する機会は刺激的な経験です。



アジア公共政策プログラム(APPP)  
須田 知宏さん

## 卒業生の声



### 池田 聡子さん

公共法政

一般2年コース・2014年修了  
国土交通省(現在、佐賀県政策部に出向中)勤務

法学部時代に国土交通省の職員を志しましたが、学部時代は行政などについて学ぶ機会が少なく、公務員試験を受ける上でも学び直しが必要と感じてIPPの公共法政プログラムへ進学しました。IPPでは、学びに来ている国家公務員の方から実務の話が聞ける機会もあるだろうという期待もありました。

学修環境は、まさに期待どおりでした。国家公務員はじめ県庁や市役所職員、市議会議員など公的な仕事に従事する方々と共に学ぶことができました。授業では、先生による理論的な話と先輩方の実務上の話とがミックスされたディスカッションを通して、視野を広げることができました。入省後、上司や同僚たち、あるいは外部の方々と違和感なく議論できるのは、IPPでのそうした経験があったからだと思えます。



### 中沢 優希さん

グローバル・ガバナンス

一般2年コース・2021年修了  
内閣府勤務

GGでは、多くの授業がディスカッション形式で行われます。事前に文献を読み込んだうえで自分の考えを言語化し、相手に理解、納得してもらうよう話す必要があります。クラスメイトは社会人や海外からの留学生など、学部時代とは大きく異なっていました。さらに、日中韓の大学との共同プログラムに参加したり、ケンブリッジ大学とオックスフォード大学に赴いて、現地の学生と安全保障などをテーマに議論する機会もありました。このように、経験や価値観が異なる方々と相手に自らの考えを伝えながら、合意形成を行う力が鍛えられました。また、英語での授業やディスカッションの機会が多いため、語学力も鍛えられます。GGは、真のグローバル人材を目指すのに相応しいスキルやマインドが学べるプログラムだと思います。



### 沖 恵梨さん

公共経済

社会人1年コース・2010年修了  
The David and Lucile Packard Foundation 勤務  
Japan senior advisor

総合社でプロジェクトファイナンスに関わる中、企業の利潤の最大化が結果的に地域の環境破壊等の社会的問題とつながる現実と直面。財務のプロとしてのキャリアを、こうしたエシカルな問題を無視して続けることは難しいと思いました。政策をつくる側の制度設計に原因があると考え、政策立案に近い立場に立つべく、政策大学院への進学を決意。IPPは、1年で修士を取得できるプログラムが魅力で選びました。

その1年間は素晴らしいものでした。少人数制で先生とも非常に近い距離で理論と実践をバランスよく学べたからです。修士論文も丁寧に添削していただきました。卒業して10年以上経った今でも、先生から時折助言を得ています。



### Nguyen Thanh Tungさん

アジア公共政策

社会人2年コース・2019年修了  
一橋大学経済学研究科博士後期課程

Before coming to Japan, I was working at the Vietnam Institute for Economic and Policy Research. In 2019, I obtained my master's degree in public policy at the Asian Public Policy Program. The program offers important core courses in economics and econometrics and many elective courses in different aspects of a modern economy, especially in Asia. APPP also provided me the opportunity to transfer to the Graduate School of Economics for a doctoral study. I am now a PhD candidate at Hitotsubashi, working on the field of labor economics. The best thing about APPP is that you always have the support you need, from career advice to daily life.

## 学生構成

2022年4月入学者の形態別割合

